

主題	稼働率意識から生まれるリスクマネジメント		
副題	SOR (Safety Operation Rate=稼働率安定) のためにケアワーカーができること		
リスクマネジメント		稼働率、予防的ケア、優先順位	
研究期間	12 ヶ月	事業所	特別養護老人ホーム 日の出ホーム
発表者：大高 陽介（おおたか ようすけ）		アドバイザー：	
共同研究者：南澤一裕、永井彬矢、澤井裕美			
電 話	042-597-2021	メール	Yosuke-Otaka@h-sunrise.com
FAX	042-597-1973	URL	http://www.h-sunrise.com

今回発表の事業所やサービスの紹介	介護老人福祉施設 200 床、併設の在宅サービスセンターひので理想郷の園定員 40 名、デイサービスセンターサンライズ平井っ原定員 15 名、小規模多機能型居宅介護、ショートステイ 15 床、居宅介護支援事業所、訪問介護員養成研修事業の 7 事業を運営。11 月に 50 床のユニット型特養サンライズ大泉が開設予定。 法人理念「安心と充実の人生を一緒に」を掲げ、サービスの提供を行っている。
------------------	---

《1. 研究前の状況と課題》

＜状況＞

日の出ホームでは稼働率がH23年度98.49%と安定しているが、インシデントの発生件数がH21年度207件、H22年度236件、H23年度304件となり、年々増加傾向にある。

今まではインシデントが発生した後の再発防止に力を入れていたが、結果としてインシデントは年々増加していた。

＜課題＞

今後要介護度の重度化、利用ニーズの多様化が進むことにより、更なるリスクの増大やインシデントの増加が予測され、安定した稼働率が保てなくなる可能性がある。そのため、今後は予防策やケアワーカーの稼働率意識向上にも力を入れる必要がある。

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

＜目標＞

稼働率の安定に対する意識向上に繋がる取り組みをすることで、ケアワーカーが広義としての社会的役割を認識できることを期待する。（以下、今回の研究を通して日の出ホームでは稼働率の安定をSORと呼ぶことにした。）

そして、リスクマネジメントを行う際にSORを意識することで、事故による入院数の減少、入居者の安全安心を守る体制作りができると考えた。

＜期待する成果＞

稼働率を意識することによって

- (1) 稼働率を今後も安定させることができる。
- (2) インシデントを発生させないケアの実現=先を見据えたケアを行うことができる（例えば事故による入院者数、インシデントの減少につながる）。

《3. 具体的な取り組みの内容》

(1) リスク意識向上を目的とした印刷物の発行

① 毎月の稼働率・空床ベッド数・入院者数を添付することで職員全体に月ごとの稼働率の推移や経営的視点を周知し、入院に繋げない為の各フロアの取り組み等も紹介した。(リスク通信)

② 毎月各フロアで発生したインシデントの分析と集計を行い、事例を紹介していくつかの予防策を記入した。(リスクレポート)

(2) 予防処置

時間帯分析、先を見据えたケアの実践。具体的には、次の勤務時間に予想されるリスクを考え、転倒ハイリスク者の優先順位(以下、リスク者1・2・3とする)を勤務交代時に申し送る。

(3) 居室移動

あるフロアにて転倒、転落などが相次いで発生していた。そのケアワーカーは1人で17名の入居者対応を行うため、安全安心のケアが保てない状態であった。

そのためケアワーカー、入居者のバランスを考えた居室移動を行った。

《4. 取り組みの結果と考察》

(1) ① 日頃稼働率を意識しづらい現場のケアワーカーに現在の稼働率を知ってもらうことができた。

② H23年度の上半期と下半期を比較すると、下半期で転倒・転落の件数は増加してしましたが、外来受診を必要とした事故の件数は15件から11件に減少できている。

(2) 予防処置の実施期間(H24. 1～H24. 3)と前年同月期間を比較して、ケアワーカーの判断ミスなどによるインシデントの件数は6件から2件に減少した。また、リスク者1・2・3に複数回挙がっている方のインシデント件数が、予防処置実施前の3ヶ月では6件だったのに対し、予防処置実施期間の3ヶ月は2件に減少することができた。

(3) 居室移動前後の1ヶ月間のインシデントが16件から6件に減少した。食堂でのインシデントが4件から0件になった。

また、居室移動後に実施したストレスについてのアンケートでは、居室移動前よりストレスが減少したと評価したケアワーカーが多くいた。

さらに各取り組みを通して、骨折によって入院に至る事故がH22年度の5件から、H23年度は1件に減少することができた。よって、各取り組みがリスクを減らそうとする意識向上に繋がったため減少したのではないかと考えた。

《5. まとめ、結論》

＜今後の課題＞

自立者の転倒・転落に関してはH22年度101件からH23年度143件に増加した。よって、自立者も含めたリスクマネジメントに取り組む必要がある。

＜結論＞

リスクの高い方の転倒・転落は減少出来ており、比較的短期間で事故の予防に繋げることができた。

つまり稼働率を周知することにより、SORを維持することができれば、安定した収入が得られることや、特養の社会的役割が果たせるということや、ケアワーカーが理解できたため、モチベーションアップに繋がったのではないだろうか。それによりリスクを減少させたいという意識が生まれ、日の出ホーム全体で一致団結して取り組むことができたのではないかと考えられる。

《6. 提案と発信》

今回の研究では「稼働率意識」がキーワードであり、普段ケアワーカーが意識しづらい法人の経営面、社会的役割を意識するきっかけとなりました。

ぜひ他の施設でもSORを意識したリスクマネジメントを行ってみてはいかがでしょうか？

【メモ欄】